

文化財NEWS

文化財パトロール ～檜枝岐村～

8月31日(水) 檜枝岐村で行われた文化財パトロールを訪問しました。今回は「**国指定有形民俗文化財**檜枝岐の舞台」の現地視察と「**県指定無形民俗文化財**檜枝岐歌舞伎」のヒアリングが行われました。



10年振りに茅葺きの屋根が改修され、8月の公演はリニューアルされた舞台で行われました。人の暮らしのある建物の茅葺きは、囲炉裏で燻されるため腐りにくく、30年程度もつそうですが、舞台は人が住みません。そのため10年に1度葺き替えが必要となるそうです。

【檜枝岐の舞台(昭和51年8月国指定)】江戸時代に建設されたこの舞台は、明治26年に焼失し、明治中頃に再建されました。それ以来、保存はもとより、奉納歌舞伎や公演で利用され続けてきており、文化財が村の暮らしに溶け込んでいる様子が見えます。多くの文化財が「触れられない」「立ち入れない」「眺めるだけ」という中、実際に活用されているのは素晴らしいですね。

【檜枝岐歌舞伎(平成11年3月県指定)】毎年5月12日(愛宕神祭礼)と8月18日(鎮守神祭礼)の祭礼に“奉納歌舞伎”、9月第1土曜日に“歌舞伎の夕べ”として、千葉之家花駒座の皆さんによって演じられます。要請があれば村外で演じることも…。11ある演目の演技や台詞は当初のまま受け継がれてきています。



文化財保護指導員 佐藤淳一先生(左)
檜枝岐村教育委員会 平野暁史さん(中)
千葉之家花駒座 星 友和さん(右)

<花駒座 星さんのお話から>

幅広い年齢層で構成される花駒座の座員は、役者さん、裏方さんを含め約30名。若手や衣装の着付けの技術をもつ裏方さんが少なくなっているそうです。また役者の皆さんはそれぞれ仕事を持っており、稽古は仕事を終えてからになります。冬場が練習の最盛期ですから、稽古を終えて帰宅する時には腰まで雪が積もっていることも…。「今あるものを絶やしたくないという気持ち(使命感)でやっています。」また「**背伸びせずにやっていきます。**」と話してくれました。華やかな舞台を支える「舞台裏」の苦労と情熱が垣間見えました。

みちくさ

国道から檜枝岐の舞台へ続くアプローチには“ハサミ”がたくさん奉納されている社があります。「縁結び」「縁切り」の御利益が……。



「橋場のぼんば」詳しくは現地で!